



義援金到達 3,213,243 円

<現地支援レポート>

多くの仲間と生活をともにし、人との 繋がりの大切さを知ることが出来た支援！

おだわら診療所 看護師 澤田浩子



現地で支援者の仲間と…

被災地(宮城)の様子は、メディアで見る光景よりも凄まじく、もともと何もなかった場所と錯覚を起こすほど残骸ばかりが残っていました。私は避難所生活を余儀なくされた方の往診に主に携わることが出来ました。

慢性疾患、感冒症状などへの診察、基本的要求が満たされていないことから起こる身体的・心理的症状を抱えている方が多く、毎日3食パンによる食欲衰退、狭い空間でのプライバシーが保持出来ないことからくるストレスが溜まり、消化器症

状が出ているなど様々なものがありました。また、聞き出す情報収集ではなく、単純なコミュニケーションから情報を聞き逃さない情報収集を行い、随時、入れ替わる医療支

援チームでカンファレンスを行い、情報を共有しました。

避難者と関わる中で、提供したいと考える内容が増えていく一方、行政からの依頼がないと出来ないというもどかしさも感じました。その為、自分には、何も出来ないという気持ちになることも多かったのですが、支援者として出来る項目は限られるが内容を深くしていくことで、自分の目では見ることは出来なくても変化していくことを感じることは出来ました。

これまで、支援に携わった支援者から申し送られ、自分たちが変化させながら、次の支援者に申し送っていく。継続していくことで、少しずつ避難者の個々にあったものに提供出来ていくのではないかと考えます。

この現地支援に参加し、他県からの多くの支援者と関わる事が出来ました。同じ思いで参加した支援者の協力性は、今までに感じる事のないものでした。多くの仲間と数日ではありますが、生活をともにし、人との繋がりの大切さを知ることが出来ました。今後も人との繋がりを考え、今回経験できたことを生かしていきたいと思えます。このような場に参加させていただいた皆様に感謝します。